

、
十
ヌ
メ
ラル
オ
ベ
リ
ス
ク

県立金沢総合高等学校 演劇部

真昼/016(マヒル)

麻/089(アサ)

旺真／＼〇〇〇（オウマ）

天幸/104(テンシ)

灯樹/109(トウキ)

葬儀

「お爺ちゃん！次の日曜日どこか遊び行きたい！」

「ん？日曜日かい？あーすまないね、その日は私のフェアウェルデーだったね」

「そっか…じゃあ土曜日はフェアウェル・イヴだね」

「ああ、たくさんご飯を食べるんだぞ、ケーキも買おうか」

「うん…」

開幕(または明転)

舞台は間宵孤児院のリビング、それに隣接した台所がある。加えて部屋干しの洗濯物。見て不快感はないが、裕福とは思えない。舞台の上にはオウマを除く四人が川の字になって寝ている、全員腕時計を着けている。一人、マヒルが起き上がる。

マヒル 朝か…(腕時計を確認する)また一つ減ってる。

マヒルは台所で洗顔をささっと済ませて、料理し始める。アサが起きる。

マヒル おはよう姉さん、顔洗った？

アサ まだ…

マヒル じゃあ顔洗って、朝ご飯パンと目玉焼きでいい？

B

アサ うん：

アサ、着替えにいく。マヒルは目玉焼きをささつと作り、寝ている二人を起こす。

マヒル ほらトー君、テンちゃん、そろそろ起きなー、学校遅刻するよー

トウキ はーい

テンシ まだ眠いよー

マヒル はいはい、顔洗おうねー。朝ご飯ここ置いとくよー

二人 はーい

アサ いつもごめんマヒル、朝ご飯作ってもらっちゃって

マヒル 別にいいよどうせ暇だし、あと姉さんに任せたらだめな気がしてね

アサ 私も料理は作れるよー？

マヒル 仕事で忙しいでしょ、はい朝ご飯食べて。スーツ襟立ってるよ

アサ あ、ありがと

トウキ 顔洗った！

アサ 偉いねー、撫で撫でしてあげようかー

トウキ やめろー

マヒル 姉さんは急いで、私が代わりにわしゃわしゃしとく

トウキ やめろー！

テンシ 私のバッグどこー？

マヒル えー何処だろ？…玄関とかは見えた？

テンシ 見てなーい

トウキ 僕はリュックあるもーん

B

マヒル ハイハイエライネー、ワシヤワシヤシヨウカー

トウキ だからやめろって！

アサ 私もするー！

マヒル だから姉さんは急いで！

テンシ 見つかった！

マヒル 良かったー、ほらテンちゃんも早く食べてー。あ、姉さん、もう出る時間じゃ無い？

アサ あー本当だー！

マヒル もう…啜えて走って！

アサ はーい

マヒル あ、忘れ物ないー？

アサ 無いよー

マヒル 本当の本当に無いー？

アサ 無いよー、じゃあ行って来まーす！

三人 いってらっしゃーい

マヒル ほら、二人も急ごうか、今日どっちか日直じゃなかった？

テンシ 私ー

マヒル なら尚更急いで！

テンシ はーい

トウキ 僕日直じゃないから急がなくてよくなーい？

マヒル 一人だと危ないから二人で行って

トウキ えーやだよー、もう周りにからかわれたくないもん

マヒル は？からかう？

トウキ 「トウキとテンシはできてるー」ってさ、腹立つんだよなあれー

B

マヒル 二人はキョウダイなんだからいいじゃん

トウキ ま、僕がお兄ちゃんだけだな

テンシ いや私がお姉ちゃんよ、だってお爺ちゃんを先に抱っこしてくれたんだもん

トウキ でも名前は僕の方が先に付けてもらったんだぞ？

マヒル あーもう…どっちが兄でも姉でもいいじゃない

二人 ぶー

マヒル あーほらもう出なきゃだよ、急いで…(少しフラつく)

テンシ お姉ちゃん大丈夫？

マヒル あはは…大丈夫大丈夫、少しよろけちゃっただけ

トウキ 遂に腰やったの？年？

マヒル なーにー？そんな事を言う子は食べちゃうぞー！

トウキ 逃げろー！

テンシ あっ、ちょっと待ってよー

マヒル いってらっしゃーい！

二人が捌ける。マヒルは溜息を吐いてへたり込む。オウマが入ってくる。

オウマ 子守ご苦労さん

マヒル …何処行つたのよバカ

オウマ バカって、いつからそんな言い様になった？昔は兄さん兄さんって言って来たのに

マヒル 話そらさないで、姉さん心配してたんだよ？

オウマ 何処でもいいだろ

マヒル 帰宅が早朝だなんて、夜遊びもほどほどにしてよね、子供に悪影響

B

オウマ 五十歩百歩。お前もガキだろ、まあ俺もだけどな。やるよ(リングが何かを投げ渡す)
マヒル 何これ

オウマ 見りゃわかんだろ

マヒル じゃなくて、どこで手に入れたの？

オウマ ……

マヒル どうせ盗んだんでしょ

オウマ だつたらなんだ

マヒル なら要らない(投げ捨てる)

オウマ (舌打ち)…食いもん粗末にしゃがって

マヒル なんでもいつも物盗んでくるの

オウマ 俺にはその時計が無いからな、バイトにも行けなけりや学校に通う権利さえも無い、俺はスラムのハイエナも同然

マヒル だからって盗むの？

オウマ そうだよ…なあ、その時計寄越せよ

マヒル 何で、無駄じゃない

オウマ 分かっちゃいるさ、それでも羨む権利はある

マヒル どこ行くの？

オウマ 出掛けてくる

マヒル だからどこ行くの！

オウマ 別に良いだろ、何処でも

マヒル 良くない、今日こそはあんたの口から聞くから

オウマ ……図書館だよ

マヒル あ、ちよつと！

B

オウマが捌ける。

マヒル はあ…

しばらくしてからアサが入ってくる。

アサ ただいま…

マヒル 姉さん！？どうしたの、忘れ物？もう、だからあんだけ確認したのに
アサ 確かに忘れたには忘れたんだけどね…今日、そもそも仕事なかった…
マヒル ええ…そっちなあ…

アサ ごめんねマヒル、せっかく朝急いで貰ったのに

マヒル いいよ、どうせテンちゃんが日直でバタバタしてたんだし

アサ あっ、てことで今日は私先生やるね！

マヒル そうだね、お願い

アサ 久しぶりにマヒルにも勉強教えてあげよっか？

マヒル …いいよ、もう意味ないから、それにもう勉強はしたくない、学校のこと思い出しちゃうし

アサ …そっか

マヒル 皿洗いするね。…うつ(歩く途中でフラつく)

アサ マヒル！もう今日は良いわ、私がやる

マヒル やだ、姉さんいつもお皿割るじゃん、それ片付けようとして指切るし
アサ うぐ…

マヒル (皿を洗い始める)…まあでも、ありがと。姉さんは昔から優しいよね
アサ いきなり何？

B

マヒル いや、今言っておかないと後悔する気がする

アサ …そう

マヒル まあでも、その優しさにつけ込まないかが心配かな、終いにはあんな悪ガキまで拾って来ちゃうんだから

アサ オウマの事？

マヒル そう、あのバカさつき帰って来たのよ？深夜に一体何してんだか、オマケにまた盗みまでして、本当なんであんなの拾ったのよ

アサ マヒルー？冗談でもそんなこと言っちゃだめよ

マヒル だって

アサ あの子だって私達のことを考えてやってくれている事なのよ、それを否定しては可哀想

マヒル 分かっている…でも犯罪は犯罪だよ。自分には人権が無いからってやりたい放題、少しは自重すべき

アサ まあ盗みはいけないものね、私からもなんとか言ってみる

マヒル そうして(洗い物を終える)。ふう、ほうぎどこだっ…け？(足がフラつく)

アサ マヒル！

マヒル あれ？ダメだ、意識が…(倒れ込む)

アサ マヒル！マヒル！！

照明変化

マヒルの夢の中、学校の記憶を見ている。

マヒル ここは？…学校！？

生徒1 おい見ろよ、一六番だ

マヒル ひっ！？

生徒2 やめなつて、聞こえるよ？

生徒1 聞こえるように言ってるだよ、てかやつは一六ってヤバくね？直ぐ死ぬじゃん

B

生徒2 まあでも、どうせ早死にするのに学校来る意味あんの？って感じはする。

マヒル やめて…

生徒1 絶対あれとは付き合いたくねえよ、先に逝っちまうもん

生徒2 無理無理、早いうちに別れるってわかってんだから、友達にだってなりたくないよ

マヒル やめて…！

生徒1 てか、あの番号じゃ仕事もできなくね？うちのバイト、番号四〇以上が条件だぞ

生徒2 確かに。もう社会の役に立たないんだから、あの子の分の教育費無駄だって

マヒル お願いだから…

生徒1 あーあ、あいつの話するだけで寿命縮みそうだわ

生徒2 なにそれウケる。ありそうで怖いわーホント関わりたくない

マヒル もうやめて…！

二人 ねえ、あなた、生きる意味あるの？

マヒル …そんな、こと

生徒1 どうせ十六で消えるんなら早く還ったらどうなの？

生徒2 ああ短命な命よ、人はいずれ死するもの。たとえその命の灯火が予定より早く消え去っても、神でさえあなたを許すだろう

マヒル …何が言いたいのか？

二人 だ・か・ら、自殺しろって言うてるの

マヒル …え？

「邪魔 目障り 出来損ない 生存価値無し 消えろ 腰抜け 使えねえ…」(以後繰り返し)

マヒル 嫌だ…やめて…もうやめて！

アサ マヒル！

マヒル え？

アサ マヒル…！

B

照明変化

マヒル　ここは？

アサ　良かった、目が覚めたのね。随分とうなされていたけど
マヒル　（時計を確認する）

間

アサ　……あと、何日？

マヒル　……二日

アサ　そっか、

マヒル　トー君とテンちゃんは？

アサ　まだ帰ってない

マヒル　お出掛け？

アサ　うん、買い出しに行ってくる、大量に買い込んどかないとね

マヒル　うん……ねえ姉さん

アサ　ん？

マヒル　皆んなはさ、この時計が何なのか、知ってるの？

アサ　：知らない筈、皆んな自分の名前だと思ってる

マヒル　そっか、なら良かった。ごめん引き止めて

アサ　良いのよ

マヒル　行ってらっしゃい

B

アサ …無理しないでね。今日は働くの禁止！いいね！？行ってきます(退場)
マヒル え、え？えー…

アサが退場してからしばらくの間、マヒルは考え事をして、何か気付いた素振りをする。オウマが入ってくる

オウマ よう

マヒル お帰り

オウマ 倒れたそうじゃん

マヒル そうね

オウマ やけに大人しいな

マヒル …(オウマに近付く)

オウマ お、おい！何だよ

マヒル ねえオウマ、お願いがあるの

オウマ は？

マヒル 家事を手伝って！

オウマ はあああ！？

マヒル お願い！

オウマ 触んじゃねえ！

マヒル はあ、私も嫌われたものね

オウマ いや違っ…く無いけどそうじゃねえ

マヒル 嫌いなんだ

オウマ お前だって俺のこと嫌いだろう？

マヒル 別にあんたが嫌いな訳じゃなくて、盗みを働く奴が嫌いなだけだし

B

オウマ そうかい

マヒル で、手伝ってくれる？

オウマ なんで俺が手伝わなきゃいけないんだよ

マヒル 他に誰もいないからよ

オウマ お前一人でやればいいだろ

マヒル 姉さんに止められちゃったのよ

オウマ はあ？…あー倒れたからか

マヒル やってくれる？

オウマ やるとは言ってねえよ

マヒル はあ？強情にも程があるでしょ

オウマ だってやり方知らねえもん

マヒル なら私が教えてあげる

オウマ は？やだよ

マヒル はあ？可愛い妹が手取り足取り教えてあげるって言ってんのよ！？

オウマ あのなあその妹に教えられんのが屈辱なの、あと俺ら別に血繋がってねえからそう言われてもどうとも思わねえの！

間

オウマ おい、聞こえなかったのか？

マヒル やめてよ

オウマ あ？

マヒル 私達、兄妹じゃないの？家族じゃないの？他人だって、あんたは言うの？

B

オウマ 他人とは言わねえけどよ、ここに居るのは男と女の二人。友達でも無いし同じ血も繋がってすらねえ、そんな中途半端な関係だろ、俺達ってのは

マヒル …もう慣れたつもりでいた。あんたのその暴言も態度も…でも、最期ぐらいは優しく…

オウマ おいおい頭大丈夫か？情緒不安定？

マヒル ……あんたなんか大っ嫌いっ！！（走って退場）

オウマ え、あっおい！…ああもう何なんだよ！ムシャクシャするなあっ！

オウマが一人残されていると、トウキが帰ってくる

トウキ ただいまーってオウマ兄ちゃん

オウマ …よう。もうそんな時間だったのか。テンシはどうした？

トウキ ……

オウマ まさか一人で帰ってきたのか？

トウキ ……（頷く）

オウマ はあ？何でだよ

トウキ …喧嘩した

オウマ 喧嘩だあ？んなバカな事してんじゃねえ…よ

トウキ なに？

オウマ いや何でもねえ…で、何で喧嘩なんかしてんだ？

トウキ どっちが右か左かで言い合って

オウマ …は？

トウキ だってテンシは左の事を右って言うんだよ？おかしくない！？オウマ兄ちゃんだって変だと思うよね！？

オウマ はあああああ！？くつつつつたらねえっ！！

B

トウキ 何でさ！だっておかしいじゃん、僕が正しいよ！テンシが嘘付くからいけないんだ！

オウマ だあもうバカだなお前ら！じゃあ今右を指差してみろ！

トウキ こっち！

オウマ 俺にとつての右はこっちだ

トウキ …え？兄ちゃんまで嘘つくの！？

オウマ だああああ！ホントバカだなっ！？ほらこっち向いてみろ

トウキ え？

オウマ 今右はどっちだ？

トウキ あれ？オウマ兄ちゃんと一緒だ

オウマ な？嘘ついてないだろ？

トウキ え？じゃあテンシは嘘ついてなかったの？

オウマ そうだろうな

トウキ どうしよう…テンシに酷いこと言っちゃった…

オウマ いやガチ凹みかよ。帰ってきたら謝れば良いだろ

トウキ テンシ帰ってくるかなあ？

オウマ 来るだろ

トウキ 僕が居ないから誰かに襲われたりとかでもしたら…！

オウマ おい変な事考えんな。言霊って知ってるか？言葉にした事が本当になっちゃまう事だ。だから心配するな、もっと嫌な方向にいくぞ

トウキ …オウマ兄ちゃんもそんな事信じるんだね

オウマ うるせえ、お前は落ち込んでけやこら。…昔誰かに聞かされたからな

トウキ 僕、探しに行ってくるね

オウマ おい待て一人出るな

トウキ でも！

B

オウマ とりあえず落ち着けて

アサとテンシが入ってくる。

アサ ただいまー

テンシ ごめんトウキーー！

トウキ テンシ！僕こそごめんよー！

テンシ トウキは間違ってたよー！

トウキ テンシも間違ってたよー！

抱き合ってわんわん泣く二人を微笑ましそうに見るアサと、何だこれと呆れてるオウマ。

オウマ 何があったんだ？

アサ 帰りに泣いてるテンちゃんが一人で歩いてたから事情を聞いてね

オウマ あー

アサ マヒルは？

オウマ 知らねえよ、あんな奴

アサ もう、二人も喧嘩してるの？

オウマ 関係ないだろ

アサ 二人の喧嘩は昔から長引くからなあ

オウマ だから関係ないだろ

アサ オウマ、早いうちに仲直りしなさいよ

オウマ 顔近いんだよ、ほっとけ！

B

アサ もしかして照れてる？

オウマ ちげーし

アサ お出掛け？もう暗いわよ

オウマ 俺の自由だろ

アサ そうね。はいこれ

オウマ 何だよこれ

アサ お小遣いよ、盗品よりもちゃんと買った物の方が喜ぶわ

オウマ 誰もあいつの為とか言ってるねえよ

アサ 私も言っていないわよ？誰が喜ぶだなんて

オウマ …じゃあな、お休み

オウマが退場する。いつのまにかテンシとトウキは寝ていた。

アサ 寝ちゃってたのね。お休みなさい。

暗転

SE:針音

明転

舞台には誰もいない。眠そうなマヒルが入ってくる。

マヒル あれ…みんなは？…(時計を確認する)今日が、最後の…

オウマが入ってくる。

B

オウマ よう。

マヒル ……

オウマ 無視かよ、まあいいけど

オウマは持っていた花を差し出す。

オウマ やるよ

マヒル え？

オウマ マリーゴールド。いやキンセンカだったか？

マヒル 何で

オウマ 昔好きって言ってただろ

マヒル ……どうせ盗品でしょ？

オウマ 違う、…その、金の使い方が分かんなかったから、取って来た

マヒル 取って来たって…もしかして花畑で摘んできたの？

オウマ ……そうだよ

マヒル あんたみたいのが一人で花畑行っただの？何それ面白っお腹痛い！滑稽すぎ…！

オウマ 要らないんなら捨ててくる

マヒル あー待った待った！受け取ってあげるから

オウマ まあ男から花貰ったって気持ち悪いだけだよな

マヒル ううん嬉しい、ありがと

オウマ ……泣いてんのか？

マヒル 笑い泣きよ

B

オウマ そうかよ

嬉しそうに花を眺めるマヒル、ハッとするように話を変える

マヒル で、手伝ってくれるの？家事

オウマ …おう

マヒル ありがと、じゃあ手取り足取り教えてあげるー

オウマ やっぱいい

マヒル 冗談だから

オウマ で、何すれば良いんだよ

マヒル じゃあまずは一ヶ月に一回やる事を教えるから、何かメモとか用意して

オウマ は？今日だけじゃねえのかよ

マヒル とりあえずメモして、いつか必要になるから

オウマ …(舌打ち)、これでいいか？

マヒル よろしい、じゃあまず一ヶ月に一度はカーテンを洗うこと、それと冷蔵庫の整理と掃除をしてください

オウマ なあカーテンって洗う必要あんのか？

マヒル 綺麗なカーテンが部屋にあった方が気持ちいいでしょ？

オウマ 俺には分かんねえな

マヒル ちよつとよろつかないでよ、ここに座って

オウマ へいへい

マヒル あとは窓拭きもして頂戴、メモできてる？

オウマ 多分

マヒル ちよつと見せて、うん出来てる、じゃ次行くよ

B

オウマ おう

マヒル 次は一週間に一度はやって欲しいこと、洗面台とかの水回りの掃除と、あと庭の草刈り、以上

オウマ 洗面台って汚れんのか？

マヒル 当たり前でしょ？水垢とかがつきまくり、あれ忌々しい程落ちにくいの

オウマ 水垢？水で汚れつくのかよ、どうやって掃除すんだよ

マヒル 水垢汚れにはお酢をかければ落ちる。ほら、授業でやったじゃない、水道水に含まれるミネラル成分にはカルシウムが入ってて、

カルシウムはアルカリ性だから酸性のお酢が効くのよ(ドヤ顔)

オウマ …知らねえよ、そんなこと

マヒル …ごめん

オウマ で、一週間にやるのはそれだけか？

マヒル うん。じゃあ最後に毎日やること、料理とお風呂の掃除、あとは帚で家の掃除、あとは洗濯かな、買い物は姉さんがやってくれるから大丈夫

オウマ 終わりか？

マヒル ええ、ちゃんとメモした？

オウマ したよ、で？どれやればいい

マヒル 全部やって

オウマ はあ！？全部って馬鹿じゃねえの！？

マヒル 私は全部毎日やってるけどなあ、あれー？出来ないのー？ダッサー

オウマ はあ？出来るわ舐めんじゃねえ、やってやるよ全部

マヒル お兄さんお兄さん、あんたやり方知らないでしょ

オウマ …早く教えろ

マヒル 頼まれなくても教えてあげるって、じゃあまずは洗濯物を取って来て、次畳んでしまつて、はい次床はいて雑巾掛け、次いでに窓も拭こうか、んじゃ次お風呂場行つて洗つて、その後に水回りの掃除だから洗面台洗つて、ほら戻れ、そしたら台所洗つてねー

B

オウマはマヒルに言われるがままに上下を行き来する。マヒルの指示が終わると、漸く解放され息を切らす。

オウマ おい、楽しんでんたら、殺す気か

マヒル あっはっは！あんたのそんな状態見るの新鮮、ウケる

オウマ やっぱ楽しんでいやがったよ

マヒル あんたはあんたで私の笑顔を目に焼き付けておくことね

オウマ は？

マヒル 可愛い可愛い妹の笑顔ですよー？

オウマ だから俺たちは…なんでもねえ

間

マヒル ねえ、オウマはさ、運命って信じるたち？

オウマ いきなりなんの話だよ

マヒル 私は運命が存在するという事実を知ってる、けど、信じたくないの

オウマ 運命が本当に存在してるだとか？馬鹿らしい

マヒル いずれあんたにも分かるよ、運命が存在してる理由が。…じゃあさ、なんで人は人を見下ろすんだらうね

オウマ 老若男女と皆々の衆下を見てんのか？上を見上げれば目標が見つかるじゃねえか。下を見る必要があるか？

マヒル ううん違う、皆んなは諦めてるから下を見るの。どんなに努力をしても上になんていけないから

オウマ ふうん、底辺の俺にはそんな感情微塵も理解できねえな

マヒル そっか…じゃあ次は

オウマ まだあんの？

B

マヒル　なんで人は好き嫌いがあるのかな？

オウマ　どういう事だ？

マヒル　差別とか恋愛とか、そういう話

オウマ　差別は劣等感を埋めるもので、恋愛は寂しさを埋めるもの？

マヒル　：オウマって意外と文系だよ

オウマ　は？何でだよ

マヒル　化学とか分かんないのに、そういう表現はすらすら出てくるじゃない

オウマ　悪いか

マヒル　褒めてんじゃん、素直に喜べよ可愛くないなあ

オウマ　で、もう終わりか？

マヒル　待って、最後に一つ

オウマ　今日は随分聞きたがりだな

マヒル　：ごめん

オウマ　なんでいきなり謝んだよ、さっさと話せ

マヒル　じゃあ、さ：なんで人は死ぬんだと思う？

オウマ　人が死ぬ？当たり前な事だろ。林檎だっていつしか腐る、鉄も錆びて朽ちちまう。感情だっていつかは腐るか錆びるかして朽ちて

くんだ、それが俺ら人間に当てはまらないわけが無い、最早この世の法則だよ。諸行無常、万物流転ってな。

マヒル　そっか：

オウマ　どうしたんだよお前、やけに消息的じゃねえか

マヒル　別にいいでしょ、物でも感情でもいつかは腐るんだから、それ即ち人は変わりゆくものって事でしょ、今日偶々いつもと違うだけ

で、何も不思議じゃないでしょ？

オウマ　そうかよ

マヒル　何処行くの？

B

オウマ もう終わったろ

マヒル じゃなくて、何処行くの？

オウマ …学校だよ

マヒル 何しに？

オウマ ああもうとんだ質問魔だな！

マヒル 私知ってるよ

オウマ …何をだ

マヒル いつもテンちゃんやトー君の帰り道を見守ってくれてるんでしょ

オウマ 何でそれを…

マヒル ありがとね、でも、我儘言ってるいい？

オウマ …何だよ

マヒル 一人にしないで

オウマ …何なんだよ、今日お前ほんとおかしいぞ？

マヒル いいから、お願い。あ、そうだ、ほら時計貸してあげるから

オウマ …分かったよ

マヒルは腕時計を貸し渡し、オウマはそれを付ける

マヒル ……やっぱり、○○(ゼロゼロゼロ)だね

オウマ なんで○○じゃだめなんだよ

マヒル オールゼロなんてありえないのよ

オウマ お前はいくつなんだよ

マヒル ……016

B

オウマ トウキとテンシは？

マヒル 109と104よ。ちなみに姉さんは089

オウマ ふーん、で、この数字結局なんなんだよ

マヒル 簡単に言えばステータスかな

オウマ ステータスう？

マヒル この値が高ければ高い程地位が高いの

オウマ 上限はいくつなんだよ

マヒル さあ、それは知らない、120とかは行くんじゃ無い？

オウマ もういい、返す

マヒル あんなに欲しがってたのに？

オウマ 俺もバカじゃねえ、俺は付けても無駄だって事ぐらい分かる。つまりはガチで最底辺なんだろう、俺ってのは

マヒル …まあそうだね。でも、私はあんたが羨ましい

オウマ はあ？何でだよ

マヒル 私も数字が分からなければ良かったなあって

オウマ 何でだよ、利点なんて一つもねえ。人権が無いからここに居るってのに

マヒル ここは、居心地が悪い？

オウマ …そうは言ってるねえよ

マヒル なら良かった。ねえ兄さん、これから先、皆んなを支えてあげてね、そしてテンちゃんとトー君、姉さんと思い出をたくさん作ってね

オウマ なんでそこにお前が居ないんだよ

マヒル 居てほしい？

オウマ …ああ

マヒル えーなにになに？デレ期でも来た？

B

オウマ 良い加減うぜえぞ

マヒル …ごめんね

オウマ …それ、どういう意味だ――

アサ たいまいー！

アサとテンシ、トウキが舞台に入ってくる

マヒル 姉さん！？今日は随分帰りが早いね

アサ フェアウエル・イヴだと言ったら早退させてもらったわ、同じ理由でトー君達も引き取りましたー

トウキ ねえ、フェアウエル・イヴってなんなの？

アサ 数十年に一度の誕生日みたいなものよ

テンシ じゃあお家でお祭り！？

アサ そう、そして今日の主役はマヒルよ

マヒル ちよつと姉さん

トウキ 僕たちは何すればいいの？

アサ マヒルに日頃の感謝を伝えるの

トウキ 分かった！

アサ オウマも、今日だけでも私達とずっと居ましょ

オウマ …居るだけだぞ

アサ 十分よ

マヒル 姉さん、私聞いてないんだけど、料理も何も作ってないよ

アサ だって言わなかったんだもん、それに今日はケーキを買ってきたからねー

テンシ ケーキ！？やったー！

B

トウキ 白いケーキ？黒いケーキ？

アサ フェアウェル・イヴはチョコケーキを食べるのが習わしなんだよー？

トウキ あ、黒い方だ！

テンシ 私イチゴの方が良かったー

アサ 今日は我慢してねー、ほら、食べましょ

ト&テ はい！

マヒル はあ、包丁持ってくるね

アサ マヒルは座ってて、今日は主役だと言っててるでしょう？

マヒル 分かったよ、じゃあお願い。あ、皿は持たないでね？どうせ落とすんだから

アサ うっ…はい。じゃあオウマも手伝って

オウマ 何で俺が

アサ オウマー？

オウマ …(舌打ち)、やるよ

アサ 良い子だー

オウマ 子供扱いすんなよ

マヒル あれー？こないだ自分も子供だと言ってなかった？

オウマ うるせえ！黙って座ってろ！

マヒル はいはい、ほら、二人は手洗ってきな

ト&テ はい

皆、切り分けたりと準備をしている。その中、家電が鳴り始める。マヒルはそれを手に取る。

マヒル はい、もしもし

B

葬儀 こちら日本政府付属国立葬儀でございます。マヒル様はいらっしゃいますでしょうか。

マヒル 私がマヒルです

葬儀 あなた様でしたか、夜分遅くにすみません。フェアウエル・イヴ、楽しんでいらっしゃいますか？

マヒル 今からケーキを食べるところです

葬儀 左様ですか。お友達もご招待したのですか？

マヒル いえ、私に知人は居ませんから

葬儀 これは失礼しました。さて、世間話もこの辺にしておきましょう。本日の用件に移らせていただきます。

マヒル はい

葬儀 明日は直接お迎えに伺う形でよろしいでしょうか。

マヒル 構いません。住所は以前に伝えてあると思います

葬儀 はい、こちらで確認させていただきます。どのような形式をお望みですか？

マヒル お金はかけないでください

葬儀 承知いたしました、では後日。今日一日お楽しみください。

マヒル ……。

電話が切れる。

準備が完了し、皆で食べ始める。その頃オウマは少し離れたところに立ち尽くしている。

全員 いただきますーす！

美味しそうにそれぞれ食べる。オウマはそれをずっと眺めている。

アサ オウマの分、あるよ？

B

オウマ 要らねえよ

アサ 何で？皆んなで食べましょ

オウマ 甘いもんは食いたくねえんだよ

アサ ならせてこっちに來て

オウマ ……。

マヒル ……あもう！良い加減カッコつけんなよこの唐変木！

オウマ 何だっ！？

マヒル いいからこっちに來てよ。今日だけでも側に居て？

オウマ ……なんなんだよ、今日のお前はおかしい…何か隠してんじゃねえのか？

マヒル 別に何も隠してない。ただ、今日は私が主役なんでしょ？

アサ ええ

マヒル なら私のお願ひも聞くのが筋じゃない？

オウマ とんだ暴論だな、お願ひならさっき聞いてやったら

マヒル なら、一生のお願ひ

オウマ その手で來たか

マヒル この日のために残してたんだから

オウマ じゃあ俺の一生のお願ひも聞けよな

マヒル 今使ってもいいんだよ？

オウマ いや、とつとく。お前みたいにしてようもないことに使いたくねえ

マヒル ……そっか

テンシ あ、そういえば今日ってマヒルお姉ちゃんに感謝を言う日なんだよね？

アサ そうだよー

テンシ じゃあ私から言うね。いつもお料理や掃除してくれて、ありがとうございます

B

トウキ 次僕ね。えーと、何言えば良いんだ？

テンシ 日頃の感謝だよ、いつもありがとうみたいな

トウキ じゃあ、いつもありがとうー

テンシ ちよっとそのまま言わないでよー

トウキ テンシがそう言えって言ったんじゃないか

テンシ そのまま言っってとは言ってないよ

アサ こらこら、喧嘩しないの

マヒル 二人ともありがと

トウキ どう致しましてー

テンシ それはちよっと違うでしょ

トウキ 違うない

テンシ 違う

トウキ 違うないー！

テンシ ちーがーう！

アサ テンちゃんトー君、落ち着いて。

テンシ むー

トウキ はーい

アサ ほらオウマも

オウマ 言わなきゃか？

アサ そういふ決まりなの

オウマ (ため息)…もう何でもいいよな。じゃあ、いつもありがとうございます。いつか、春の川沿いを…やっぱ何でもねえ

マヒル 何それポエム？

オウマ 忘れろ

B

マヒル はいはい、忘れてあげますよー

アサ よし、じゃあ私からも感謝を贈らせてもらいます。

マヒル はい。

アサ いつもご飯を作ってくれてありがとう。あと、洗濯物も助かってます。お掃除もしてくれて、テンちゃんやトー君の面倒も見てくれて、とても助かっております。仕事で疲れてる時にもマヒルの顔を見ると疲れも吹っ飛んじやって、居てくれるだけで本当に嬉しい。…嬉しいよ。

テンシ アサお姉ちゃん？大丈夫？

アサ 大丈夫、ただの花粉症だから。

トウキ え、

アサ マヒル、私にとって貴女はとても大事な存在よ。例えば何があろうと私は貴女を忘れない、絶対に。

マヒル 姉さん…ありがとう

テンシ 私も抱っこしたいーい、トーキもほら

トウキ あ、ちよっと

テンシ ぎゅーっ

アサ ふふっ、ぎゅーっ

オウマ なあ、そいつはどっかに留学かなんかするの？

アサ いいえ、ずっとここにいるわ

オウマ …そうか

マヒル じゃあ私からも言っつていい？

アサ ええ

マヒル テンちゃんとトー君の笑顔が私は好き、いつまでもその笑顔を忘れないで、いつもありがとう

テンシ わーい！

トウキ でも今日はマヒル姉ちゃんに感謝する日でしょ？なんでマヒル姉ちゃんがありがとうしてんの？

B

マヒル そんな私の自由じゃない。それに、感謝には感謝で返すのが一番でしょ？善意には善意が返ってくる。そういうものよ

トウキ ゼンイってなに？

テンシ トーキはバカだからなー

トウキ ならテンシは知ってるの？

テンシ (口笛)

トウキ ほら人のこと言えない

マヒル 全く、喧嘩するほど仲が良いとは言うけど限度があるでしょ

アサ まあいいじゃない

マヒル あ、姉さんには一杯あるよ。いつもお仕事ありがと、私達の生活守ってくれてありがと。あと、私やオウマ、テンちゃんにトー君、皆んなに勉強を教えてくれた。何よりも、私達を拾って家族にしてくれた。不器用だしおっちょこちょいでほんとけない所ばかりだけど、それでも私はいつも助けられていた。心の支えになってくれた。この一杯一杯の感謝を表す言葉が見つからない程。でもこの言葉一つに全てを込めさせて欲しい。本当にありがとう。

アサ いやね、今日は花粉が酷いわ

トウキ 今花粉の季節じゃないよー？

アサ 花粉の季節なの！

トウキ てか花粉症だったっけ？

アサ 今なった！

トウキ ええー？

テンシ なんか私も涙が…花粉かも

トウキ テンシも？

マヒル …オウマ

オウマ なんだよ

マヒル あんたも、ありがとね

B

オウマ 俺は何もしてねえ

マヒル そうだね

オウマ ……

マヒル それでもありがと

オウマ ……おう

マヒル ねえ、こっちに来てよ

オウマ 断る

マヒル ならもう私から行く

オウマ は？

マヒル ……あれ？（フラつく）

アサ マヒル！

テンシ お姉ちゃん！

オウマ おいお前！

マヒル あれ、来てくれた

オウマ ふざけんな！なんでその容態で動こうとしたんだ！

マヒル あんたが来ないからでしょ

オウマ ……訳がわからん。何をそこまで執着しやがる

マヒル えへへ

オウマ ……そろそろケーキ食べろ、腐るぞ

マヒル そんな早く腐らないって

アサ まあでも食べちゃいましょうか、マヒル立てる？

マヒル ちよっと肩借りていい？

アサ ええどうぞ

B

マヒル ありがとう

アサ さあ、改めて食べましょ、オウマは？

オウマ 要らねえつつってんだろ

アサ そう：じゃあ何かお話でもしましょうか、テンちゃんとトー君は明日はお休み？

トウキ 明日は金曜日だよ、休みは明後日。

テンシ それに、明日は絶対に休むなって言われたもん

オウマ 釘を刺したか、何か大事な話でもあるのかね

トウキ 釘なんて刺されてないよー？

オウマ そういう表現だ

テンシ あのねあのね、先生すっごい真面目な顔して言ってたよ

トウキ あ、そうだったね。まるで鬼みたいだったよ

アサ 鬼見た事あるのー？

トウキ あるよ！

テンシ いやないでしょ

トウキ あるって

テンシ じゃあどんな姿？

トウキ えっとねー、すっごく大きくて、すっごく赤くてー、それで牙がこう伸びてて怖い顔をしてるんだよ

テンシ えっ、本当に会ったことあるの？

トウキ テンシの後ろにも：ほら

テンシ きゃー！

マヒル 誰が鬼だって？

オウマ (失笑)

マヒル あんたは笑うな

B

オウマ 傑作だわ……あー笑った。

その内に皆んな食べ終わる。オウマの分は残ったまま。

オウマ そろそろお前ら寝ろよ、明日学校もあるんだろ？

マヒル ……そうだね

アサ オウマ、今晩はちゃんとお家に居なさい

オウマ は？なんでそこまで――

アサ 居なさい？

オウマ ……分かったよ

テンシ 今日は皆んな一緒だね

マヒル そうだね

オウマ 俺はそんな暑苦しい中に入る気はないからな

トウキ えー、オウマ兄ちゃんも一緒に寝ようよー

アサ 風邪ひくわよー

オウマ 俺は風邪なんて引いた事ないし

マヒル そう言いながら風邪ひくのを期待するわ、まあ馬鹿は風邪を引かないって言うけどね

オウマ それならお前も馬鹿だね

マヒル 私は現在体調不良中ですよ？労ってくださいーい

オウマ 病人は自分でんな事言わねえよ

マヒル 人それぞれでしょ

オウマ もういいから寝ろよ

テンシ はーい、おやすみなさいーい

B

トウキ おやすみー

アサ お休みなさい

オウマ 早えな

マヒル あんたは寝ないの？

オウマ お前こそ病人なんだろう、早いとこ寝ろ

マヒル はいはい……ありがと

オウマ なんかつたか？

マヒル ……。

オウマ もう寝たのか？

マヒル お休み

オウマ 起きてるじゃねえか。…お休み

暗転

SE:針音

明転

舞台には寝ているマヒルと、それを遠目で眺めるアサとオウマ。

オウマ 今日ほとんどお寝坊だな、こんな時間になっても起きねえ。そろそろトウキ達が帰ってくるぞ

アサ …寝かせといてあげて、無理に起こしちゃいけないわ

オウマ あーはいはい。そんじゃ、邪魔者は出ていこうかね

アサ 二人の見送り？

オウマ あんたまで知ってんのかよ

アサ 私とマヒルの共通認識ですよー

B

オウマ はあ…じゃあな
アサ …行つてらっしゃい

オウマは袖に捌けるが、そこで葬儀の人と立ち会う。

オウマ 誰だてめえ

葬儀 こちらがマヒル様のお宅でしょうか？

オウマ …そうだが

葬儀 そうでしたか。ではお邪魔いたします。

葬儀の人はオウマに構わず入ってくる。それを追うようにオウマもまた入ってくる。

オウマ おいてめえ、待てや

葬儀 なんでしょうか。

オウマ 何勝手に入つてんだよ

葬儀 駄目でしたか？

オウマ 当たり前だ。何故名も知らねえ鼠を家に入れたがる。早急に消えろ、でないと鼠取りでとっ捕まえる。もつとも、うちにはてめえの好むチーズは無いけどな

葬儀 鼠と来ましたか、これは面白い。ですが私はどちらかと言えば犬でしょうね。

オウマ 犬ね、なら芸の一つでもやってみろよ

葬儀 犬は主人の命で動くものでしょう？私は有能な猿故。

オウマ そうかよ。で、鼠と犬と猿のキメラ野郎、そろそろ正体を明かさねえか？いい加減摘み出すぞ

葬儀 失礼しました。名乗ってませんでしたね。私、日本政府付属国立葬儀の者でございます。

B

オウマ なんの用だ

葬儀 マヒル様に用があるのです。

オウマ 何の

葬儀 私はただお迎えに上がっただけのことです。

オウマ 迎えだと？言っておくがこいつはシンデレラじゃない、王子様と添い遂げたいなんて微塵も思っちゃいないさ。馬の姿はやめて鼠に返るんだな

葬儀 いえいえ、それで例えるなら、彼女は人魚姫でしょう。この儂い命が泡の様に静かに散っていく。哀しくも美しい。

オウマ お前がマヒルの何を知っているんだ

葬儀 全然。ただ一つ、今日彼女が死去される事だけは分かります。

オウマ は？

間

葬儀 おや？マヒル様の番号をご存知ない？

オウマ 〇二〇だろ

葬儀 ならその意味は？

オウマ …ステータスじゃねえのか？

葬儀 小学六年生の道徳の時間で必修のはずですが

オウマ 俺は学校行ってねえ

葬儀 …お伝えになられてないのですか？

アサ ……。

葬儀 そうですか。では教えてあげましょう！我々の持つこの時計はなんと、身に付けた人の寿命が分かるのです。さて、寿命とはなんでしょう。我々は何故死ぬのか。いやそもそも何故私達は生きているのか。まず二人の人間から一つの卵が誕生します。そしてそ

の卵が細胞分裂を繰り返して、今の我々はここまで大きくなってきました。でもその分裂には限界があるのです。その仕組みは少し難しなるので省きますが、限界を迎えるとその時細胞は死ぬのです。それこそが生命の限界、寿命なのです。限界のタイミングは同生物であればみなほとんど同じ、では何故寿命がそれぞれ違うのか。実はその限界を伸ばしたり短縮を遅延したりする物質が存在します。これが活発に作動すればその分だけ寿命は伸びるのです。そして限界のタイミングを計測し、寿命を引き出すのがこの時計。我々は遂に生命の終わりを解明したのです！ただ…この時計は寿命を測るだけであって、病死や事故死の予言ではありません。中には100まで生きる人が事故に遭うこともありますからね。残念なことです。ご理解頂けましたか？

オウマ 分からねえ、科学とかの話はマヒルに言いやがれ

葬儀 そのマヒル様は今お眠りになられてますから。

オウマ 馬鹿馬鹿しい！馬だけでなく鹿にもなるつもりか？鼠野郎。とんだほら話に夢物語だ、てめえの虚言に付き合う気は――

アサ オウマ！

オウマ なんだよ声荒げて

アサ ……。

オウマ …マジなのか？おい何とか言えよ！

アサ 昔、お爺ちゃんが亡くなった時も…その時計は死の警告をした。時間通りだった

オウマ なんだと？

アサ もうすぐでオウマも事実を受け止めるはずよ…

オウマ どういうことだよ――

テンシとトウキが入ってくる。

テンシ お姉ちゃん！

トウキ 姉ちゃん！

オウマ お前ら

B

テンシ　ねえマヒルお姉ちゃんは！？

オウマ　そこで寝て――

テンシ　お姉ちゃん！

トウキ　姉ちゃん！…マヒル姉ちゃんの番号っていくつだっけ！？

オウマ　016だ

テンシ　今、何歳だっけ？

オウマ　…16だ

テンシ　じゃあお姉ちゃんは…

トウキ　ねえアサ姉ちゃん！フェアウエルってどう言う意味なの！？ねえ！ねえ！！

葬儀　フェアウエルとは、「お別れ」という意味ですよ

テンシ　…だれ？

葬儀　私、日本政府付属国立葬儀の者です。そうか、もうこの時期ですか。貴方達、六年生ですか？いやそれは目出度い、遂に自分の存在意義を知れたも同然、おめでとうございます。時計、確認させてもらってもよろしいですかね？

テンシ　え？

葬儀　寿命が長い人はそれだけ優秀な遺伝子を持っています。そして学習する時間も長く、労働力として優位な位置にあります。この世は寿命こそが全て、進学にしても就職にしても、大事なのは寿命なのです！さあ、時計をお見せください。

オウマ　おい、触んな。

葬儀　やれやれ、貴方は随分な潔癖症の様だ。…おや？貴方、時計はどうされたのですか？

オウマ　俺は持ってねえ

葬儀　おやおや、それはいけませんな。それでは貴方こそ何処ぞの鼠ではありませんか。

オウマ　なんだと

葬儀　時計の所持は義務です。でなければ最早貴方は人権0も同然。ああでしたらもう貴方には聞く耳持たずでよろしいですね。
オウマ　てめえ！

B

トウキ まだ息がある。まだ、生きてるよ!!

アサ マヒル!

テンシ お姉ちゃん!

マヒル お、はよ

アサ ごめんなさいマヒル、静かに逝くのはもう無理よ。だから私にも抗わせて!

マヒル やっぱりこうなっちゃったか…葬儀屋の方ですか?

葬儀 ええそうです、お迎えに来ました。ただ、その前に家族との時間が大事でしょうね。ですので私は少し後ろの方にいます。

オウマ もう出てけよ!

マヒル 兄さん、こっち来て

オウマ だけど

マヒル 最後のお願ひ、聞いてよ。もう私立てないの

オウマ ……。

テンシ マヒルお姉ちゃん、居なくならないで!

トウキ 摘み食いしない!寝坊もしないし歯磨きも毎日する!だから、お願ひ!

マヒル そこまで言われたら死ぬわけには行かないな…でもごめん

アサ マヒル!何で…何で神様は酷いことをするの!マヒルが何か悪い事しましたか!?何で…何で…お父さんもお母さんもお爺ちゃん

さえも…これ以上私から家族を奪わないでよ!お願ひだから…

マヒル 姉さん…ごめん。泣かないで、これが私の運命だったんだ。生まれた瞬間から決まっていることだから。

オウマ 本当なのかよ…お前が、今日死ぬって

マヒル うん。この時計はね、寿命を表記する機械なんだ。016、16歳で私が死ぬってこと。

オウマ 嘘だ、虚言だ、世迷言に絵空事!狼少年にも程がある!

マヒル 狼少年はあなたじゃない

オウマ なに?

B

マヒル 正直になれない嘘つき兄さん、知ってるからね、あなたが家族のみんなが大好きなこと
オウマ …ああそうだよ。俺にはお前らしいない、一人も欠けちゃいけないんだ

アサ オウマ…

マヒル 私ね、兄さんが羨ましい、寿命が分からなければ明日に希望が持てたかも知れない。死ぬ前にこんな辛い思いをしなかったかもしれない。寿命が短いままでもいいから、せめて寿命が分からない世界が良かった…

アサ マヒル！

テンシ お姉ちゃん！

オウマ ……俺はお前を、家族としては見ていないんだ

マヒル そっか

オウマ お前と春の川沿いを共に歩みたい

マヒル え？

オウマ …お前が好きだ。なあ一生のお願いだ。俺とずっと一緒にいてくれ！

マヒル 無理だよ。私はもう…

オウマ お前の一生のお願いは聞いてやったら！

マヒル 無理なの、許して

オウマ マヒル…

マヒル やっと名前で呼んでくれた…オウマ、ごめんなさい。

オウマ マヒル！

アサ マヒルだめ！目を閉じないでお願いよ！

テンシ お姉ちゃん、お姉ちゃん！ずっとそばにいてよ！

トウキ もう無理だよ！…これが運命なんだ

テンシ ばかトウキ！そんなこと言わないでよ、お姉ちゃんは！お姉ちゃんは…

トウキ だって…だって！

B

マヒル 二人とも、仲良くね

テンシ お姉ちゃん…

アサ 嫌…嫌だよ…置いてかないで！

アサとテンシとトウキの泣き叫んだ声が響く。

マヒル 泣かないで…お願い、笑顔でいて

オウマ 笑顔になれる道理が何処にある！

マヒル 嘘でもいいから笑って、この世にはね、皆んなを幸せにする嘘だってあるんだから

オウマ マヒル、お前を失ったら俺の人生は常闇に包まれる。俺はどうしたらいい…

マヒル いいじゃない、暗闇があるから星が綺麗に輝くのよ

オウマ お前がその星なんだよ！

マヒル …オウマ、あなたに貰ったマリーゴールド、あなたに返すわ

オウマ え？

マヒル 私を、忘れないでね

アサ マヒル！

テンシ お姉ちゃん！

トウキ お姉ちゃん！

マヒル オウマ、私も好きだよ

オウマ マヒル！………返事をしろよ。あの気の強いマヒルは何処に行ったんだ！なあおい！………なんで、なんでこうなった？俺達は結局喧嘩ばかりだった…何も兄らしく出来ちゃいねえよ…この世に神も仏も居やしねえ！何でマヒルなんだ、何で俺じゃ無いんだ！なあ返事しろよ！死ぬべきなのはお前じゃねえ！！

トウキ 兄ちゃん…もう、姉ちゃんは…

B

オウマ 何で…何でだよ！
アサ マヒル…マヒル！

動かないマヒル。しばらくの間泣き叫ぶ声が響き渡る。

葬儀 そろそろよろしいですかね？

オウマ 帰れ…お前が出る幕じゃねえ

葬儀 私は仕事でやっている事ですから、それを投げる訳にはいかないのです。では、お運びしてよろしいですね？

オウマ よくない

葬儀 ああそうでした。あなたには聞く耳持たずにするんでした

オウマ てめえ…！

アサ 私からお願いです。今日は、お引き取りください

葬儀 マヒル様が望んでいるのです。私はそちらの意見を優先しますので。

アサ でも！

葬儀 業務妨害です。葬儀屋は公務業なのです？いい加減にしないと訴えます。

アサ ……っ！

オウマ 俺を訴えたって良い、だからマヒルは――

葬儀 いい加減にしろっ！これはこの世の決まりだ！脱落したのから燃やされていくんだ、この少女も私の娘も歴史の闇に葬られる。

それがこの世界の代替わりの原則。承前啓後の法だ。「延命は愚かしい、人口爆発を防ぐ為寿命に抗うこと勿れ」。君を訴えてもそうでなくてもこの子が燃えるのは必然なんだ。

オウマ なっ…！？

葬儀 これは君にあげよう。燃やすのに時計は邪魔なんだ。形見にでもしてください…

B

運ばれるマヒル。それを何もできずに眺める四人。受け取った時計を着けるオウマ。表示は000。

テンシ　ねえ、マヒルお姉ちゃんどうなっちゃうの？

トウキ　燃やされるんだ…

テンシ　そんなの絶対熱いよ…お姉ちゃんがかわいそう

トウキ　死んだからそんなの分かるわけじゃないじゃん！

テンシ　……。

アサ　なんで…なんで神様は奪っていくの…

オウマ　神も仏もいやしねえよ。この世には鼠の姿した煩惱だらけの悪魔しか居ない。神は死んだんだ。

暗転

明転

奥では葬式が行われておりマヒルを除く四人が並んで座っている、面ではマヒルが一人立っている。

マヒル　私は、10歳の時、寿命で死にました。とても辛い生涯でした。私は小学六年、時計の事実を知った時に絶望した、私には四年しか残されていないと。そして中学に進めばスパンカーストが始まった。寿命の低いものが高いものに虐げられる。私は学校で最底辺だった。苦しかった…

トウキが捌けて、面に出てくる。

トウキ　僕は、18歳の時、首吊り自殺で死にました。自己中心的な生涯でした。僕は六年前に聞いた時計の真実、そして姉の死を目前にして、怖くなってしまった。あの中で寿命が一番長いのは僕だった。取り残された後のことを考えていたら、恐怖で思考が止まってしまった。取り残された後を恐れたクセに、取り残される皆の事を考えられなかった。

B

テンシが捌けて、面に出てくる。

テンシ 私は、 ∞ 歳の時、乳癌によって死にました。灰色な生涯でした。私が12歳の頃の姉の死。そして私が18歳の頃の実のキョウダイであるトウキが自殺した事。それから私は抜け殻の様に暮らしていた。何にも興味を持たず、ただボーッとする日々が続いた。ある日私は癌にかかっていた。私が生まれた意味とは何なのでしょう。

アサが捌けて、面に出てくる。

アサ 私は、 ∞ 歳の時、寿命で死にました。とても悲しい生涯でした。お父さん、お婆ちゃん、お母さん、お爺ちゃんと私の家族は寿命や病気、事故で死んでいった。そして新たに出来た家族のマヒル、トウキ、テンシとどんどん私を置いて行ってしまった。私が死ぬ間際に隣にオウマが居てくれたのが唯一の救いだった。そして、ごめんなさい。置いて行つて。

マヒル ……じゃあ、そろそろ迎えに行こうか

三人 うん

面の四人は奥にいるオウマを連れてくる。

マヒル まったく、何年待たせるのよ

トウキ ようやく会えたね

テンシ おかえり、お兄ちゃん

アサ さあこれで全員集まったわね

オウマ 俺は…そうか…お前らの顔はいつまでも忘れなかったさ

マヒル オウマ、次こそ一生のお願い、聞いてあげられるわね

B

オウマ 何だったかな？

マヒル 言わせるなんて意地悪ね。これからはずっと一緒よ

オウマ …ああ

皆んなの笑い声。ゆっくりとオウマだけがサスで抜かれる。

オウマ 俺は、アサが死んでから二週間後、餓死で死にました。とても恥の多い生涯でした。俺は家族を守る事なんて一度もできなかった。マヒルも、トウキもテンシも、アサの死でさえ、俺は運命に抗えなかった。∞歳を過ぎ、盗みを辞めた人権の無い俺には生活をする権利すら最早無かった。これもまた運命だったんだろう。俺には最後まで分からないことがある。寿命が分かる需要。これがいつまで経っても分からなかった。俺もマヒルと同感だ、俺は寿命のわからない世界に生まれたかった。もしそうだとしたら、俺は運命に抗えたかもしれないというのに…

暗転

終演

解説

時計の外見…見た目を揃えるのがベストだが、別にバラバラでも可。デジタルの方が良いがアナログでも問題はない。

時計の仕組み…文字盤には基本その時の時間が映されている。リュースを引っ張るとその人の「番号」が見れる。そのまま回すと「○○○d」と表記される。死期二十四時間を過ぎると「○○h○○m○○s」で表記されるようになる。